

活動内容に関する意向調査アンケート〈自由意見〉

都市地下空間活用研究会 〈活動内容に関する意向調査アンケート自由意見〉	
1 学識・有識者	学識・有識者の話しを聞き、お付き合いを深めていきたい。
	国土交通省や自治体などの行政側だけでなく、デベロッパーやゼネコンなど、実際に仕事を実施している側からの情報を、講習会や報告会などで発信する機会を頂きたい。
	学識・有識者からの知見を得ることは、まちづくりのビジョンを構築するうえで有益です。現在も積極的にお付き合いを深めているところではあるが、多くのチャンネルを持つことは大切です。
	今までのような活動であるとなかなか弊社内に浸透することができないので、逆に学識・有識者とのお付き合いが活発化すれば意義が見いだせることになると思われます。
	インターネットや本などからは得られない情報をお聞きしたい。
	地下研の活動を通じて、学識の方々とお付き合いできることは、大きなメリットである。
2 行政動向	政府・自治体の施策に関する情報を得たい。
	政府、自治体の最前線で施策を立案、実施していらっしゃる方々から、定期的に取り組みに関する情報をご提供いただきたく、考えております。
	地方自治体の進め方について、各方面から話を聞きたい
	タイムリーな講演をさせていただいております。
	政府施策に関して事前に意見交換ができる機会は望ましく、議論の延長線上で、研究会としての意見や要望が出せるといいと思います。また事業を検討するうえで事前に情報が得られれば有益です。
	国や地方自治体の新たな政策、地下施設、まちづくりに対する新制度等、予算等について説明会等があれば参加したい
	やはり関心があり、知っておくべき事項と考えます。但し、仕方の無い事と存じますが、例えば国交省の方が使われる資料、pptは過去に何処かで見た事がある、且つ字数の多いものが常と感じています。講演いただく方の本音が聞ける、後日必要が生じた際に相談に伺えるパイプ作りのサポート機能を持たせる等の付加価値があると嬉しいです。
	地下利用に関する行政側の施策や各自治体での取り組み紹介など、もう少し情報が得られる機会があるとよいと思います。
	国交省の施策や国交省職員の方々の考え方をお聞きできることは大変有益であると考えます。
3 政策提言	課題克服のための施策を政府・自治体に提言・要望したい。
	政府、自治体の最前線で施策の立案、実施していらっしゃる方々に対して、我々が日々の街づくりの中で感じている問題点や課題を踏まえた提言、要望を行っていききたいと考えております。
	提言したいと思うが、まだまだ我々の議論が足りないと思われる
	都市空間の有効活用として地下鉄駅接続を含めた広場・歩行者道ネットワークの構築は非常に重要な役割を担っています。一方、多くの関係者の存在が合意形成を複雑化させ、さらに占用制度をはじめとする規制が足枷となっています。このような現状を共有し民間事業者が参入しやすいスキーム構築に向けた提言ができればいいと思います。
	地下施設の延伸や沿道ビルとの新規接続等にあたり建築基準法の遡及適用が問題となり、展開できないことが多い。こうした課題について緩和策の提言などを行っていただきたい
	目標をこのような提言に置くことにより、さらに実際提言するだけでなく筋道まで付け加えられれば、当会の意義も増すことになる。
	それぞれの分科会等でせっかく研究しているので、報告書としてまとめるだけではなく、何らかの形で政策提言できるのが望ましい。逆に分科会等で実施する研究のテーマも政策提言を行う前提で決めていくことで、参加企業への地下研の意義がアピールできるのではないかと思います。
	施策に係る提言等は不動産協会、ビルディング協会等の業界団体を通じて行っている。

4	調査・研究	新しいテーマを見出し、調査研究を進め公益のために尽くしたい。
新しいテーマだけではなく、従来のテーマもさらに深掘りして行きたい		
実務に反映できる調査・研究が期待されます。 例えば、地下空間の現状の評価は「サービス水準」が主体ですが、バリアフリー対策・にぎわい創出・災害時の一時避難など、多様化・複合化する用途に対する <u>総合的な評価軸に見える化としての「新たなものさし」</u> ができればいいと思います。		
目標をこのような提言に置くことにより、さらに実際提言するだけでなく筋道まで付け加えられれば、当会の意義も増すことになる。		
こちらも3と同じで、研究成果を国などへ報告できるように目標を定める必要があると感じています。		
自社業務に必ずしも直接的に関係なくとも、地下空間の有効な利活用等は重要なテーマであり、地下研での調査、研究として引き続き進めていくことが必要と考える。		
5	案件形成	公民連携プロジェクトを形成し、ビジネスの拡大に繋げたい。
そのように思うが、自社を考えるとなかなかそこまでの力が無いと思っている		
公民連携は将来ビジョンや整備効果、公民の役割の認識のために必要なことです。個々の開発案件における短期連携では事業スキーム上、双方ともに調整が難しい面があり、 <u>まちづくりとして中長期で連携が図れるマスタープランを形成し、個々の開発案件に落とし込める仕組みを構築できれば</u> と思います。		
公民連携プロジェクトには非常に興味を持っています。どのようにスタートして、成果に結びつけていくのかを勉強したいと思っています。ただ、多くの民間企業が参加している地下研で直接ビジネスを検討するのはむしろ楽しいと感じます。		
研究会が何か具体的なPJ等を通して業務を受けるという意味でしょうか？一般論的には力を入れて頂きたい部分です。		
機会があれば、地下研での検討が、 <u>現実の公民連携プロジェクト等に結びつくことがあると素晴らしい</u> と思う。		
6	講演会	話題性のあるテーマの講演を聞きたい。
学識、行政、民間のキーマンの方々に <u>最新の取り組みについて</u> ご講演をいただき、勉強させていただきたいと考えております。		
成功事例、失敗事例も聞きたい		
話題性のあるテーマに対して知見を深めたいです。 <u>地下歩行空間・大深度地下・立体道路・大規模インフラ設備など、幅広くテーマを選定してください。</u> また、講演については行政・民間開発事業者の双方からのアプローチで行うと課題がみえてきて興味深いと思います。		
新しい視点による都市開発等、 <u>話題のPJについて、その当事者から経緯、内情といった普段聞けない部分まで踏み込んだ説明を聞ける場があると、興味深く、有益なものになると存じます。</u> 併せて見学会、それもオープン・供用前に開催できると、なお希少な機会となり、参加者も増えるのではないのでしょうか。		
地下研への参加の一つのの目的はなかなかアクセスできない情報の収集です。 <u>話題性があるテーマの裏話や背景</u> などを聞きたいと思っています。		
整備事例やそれを通じた制度の課題など積極的な発信を求めたいと思います。		
世の中の動きを先取りした新しいテーマの講演等が聞けると有り難い。		

7	現場見学 普段見られない建設現場の見学をしたい。
地方事例の見学もご検討頂きたい	
鉄道関連での施設見学も増やしてほしい。	
現場見学は工事中または完成後の姿を視察することが多く、できうるならば、 <u>着工に至るまでの課題解決や行政と民間事業者との役割分担をはじめ、プロジェクト推進の苦労話を中心とした事前説明にもウエイトを置いてください。</u> また、現場に限らずネコン各社の新技術・新工法の紹介、そのメリット・デメリット、工期、コスト感を把握できる視察会も期待したいです。	
有事の際の地下貯水池等、普段見ることが難しい、供用後は立ち入れない見学先を望みます。	
こちらも6. と同じでなかなか見れない現場をみてみたいです。	
今より上記による事例紹介の講演会も含めて、機会が増えるとうよいと思います。	
話題のプロジェクトについて、整備中の現場や、整備後の運用状況等を見学できる機会は大変貴重であり、是非お願いしたい。	
8	会員間交流 産学官を問わず交流・親睦を深めネットワークを広げたい。
地下研と、それに関連する数々の団体との協働、情報交換などを活発にし、そのような団体とのネットワークを広めたい	
広義のまちづくりにおいて、産官学の枠を超えて常に様々な交流・意見交換の機会を増やすことは望ましいです。また、今後の多様化する社会環境の変化に対しては、産学官の協業がますます必要になると思います。	
地下研での活動を通じて交流を深め、過去に業務上の問題を相談したりしたこともあり、会員間の交流、親睦は重要であると思うが、あくまでも副次的な効果と考えている。	
9	その他
上記のような全ての取り組みについて、 <u>会員への情報提供を逐次</u> お願いします	
現在は内容のバランス・頻度とも良い状態であり、現在の活動内容で良いと考えております。	
関西では会員も少なく、また地下空間利用事例も少なく、本研究会の意義が薄れてきている。 <u>地下空間に限らず、もう少し広い視点で検討対象を広げ、本研究会の魅力アップにより、会員数増加に取り組んでいただきたい</u>	
日々の企画、運営に感謝しております。勝手な事を申しましたが、今後とも宜しくお願い致します。	
地下空間利用については、公共空間の利活用が大きなテーマになると考えられることから、本研究会は技術的なアプローチというよりは官民連携により整備を推進する上での事例ストックを通して、新しい施策やそれを進める上での <u>官民の役割分担、必要な諸制度等を検討・意見交換できる場</u> に一層なればよいと思います。	
現在、働き方改革等で、残業の制限等も厳しくなり、どこの会社でも若い人の参加が難しい状況がある。そのような状況であるので、 <u>参加者が会社でも充分認められるようなテーマや企画を是非</u> お願いできればと思います。また、調査、研究についても参加者の負担がなるべく少なくなるような形をお願いしたいと思います。	